

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-142	21-322	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Changes in craving following acute aerobic exercise in adults with alcohol use disorder 成人アルコール使用障害者における急性有酸素運動後の渴望の変化		
執筆者		
Mats Hallgren ¹ , Matthew P Herring ² , Davy Vancampfort ³ , Minh Tuan Hoang ⁴ , Victoria Andersson ⁵ , Sven Andreasson ⁵ , Ana M Abrantes ⁶		
掲載誌		
J Psychiatr Res 2021 Oct;142:243-249. doi: 10.1016		
キーワード		PMID
アルコール消費量、不安、渴望、運動、気分、身体活動		34391078
要 旨		
<p>目的 運動はアルコール使用障害 (AUD) の治療法として研究されることが多くなってきている。我々は、急性期の運動がアルコール渴望に及ぼす影響、反応の不均一性、渴望の減少に関連する因子について検討した。</p> <p>方法 無作為化比較試験の中で、探索的単群試験を実施した。アルコール渴望 (Desire for Alcohol Questionnaire, DAQ-short version total score > 8) を示す AUD 成人 117 名 (52.7 歳、SD = 12.3、女性 68.4%) を対象とした。介入は、サイクルエルゴメーターで行う 12 分間の亜最大フィットネステストであった。運動直前と運動後の参加者の自己評価によるアルコールへの欲求の変化を検討した。渴望の減少 (0.5SD 以上) と関連する個人的、臨床的、および運動関連因子を、階層的ロジスティック回帰を用いて同定した。</p> <p>結果 全標本において、渴望は運動前から運動後まで減少した ($p < 0.001$, $g = 0.60$ [0.40-0.79])。渴望が減少した群 (70.1%、$p < 0.001$, $g = 1.12$ [0.85-1.40])、増加した群 (16.2%、$p < 0.001$, $g = 1.08$ [0.51-1.64])、変化しなかった群 (13.7%) という 3 つのグループが観察された。40% が臨床的に意味のある渴望の減少 ($\geq 0.5SD$) を経験した。完全調整モデルでは、2 つの因子がこれらの減少と関連していた: 運動前の渴望が高い ($OR = 1.15$ [1.07-1.23], $p < 0.001$) および心肺フィットネスが低い ($OR = 0.88$ [0.79-1.00], $p = 0.043$)。</p> <p>結論 ほとんどの成人の AUD において、短時間の適度な強度の有酸素運動はアルコールへの渴望を軽減するのに役立つ。欲求が強く、心肺機能が低下している人が最も恩恵を受ける可能性が高い。</p>		